令和3(2021)年度ｼﾗﾊﾞｽ【コミュニケーション英語Ⅰ後半】

68 新潟県立高田南城高等学校（通信制）

単　位　数	必履修・選択	レポート数	出席義務時数	テスト回数
2	必履修	6	8	2

教　科　書	学　習　書・他　教　材
All Aboard！ English Communication Ⅰ （東京書籍）	All Aboard! English Communication Ⅰ （日本放送出版協会)、プリント補助教材

学　習　目　標

学習指導要領の「目標」をさらに達成しやすくするために次の目標を設定した。
・英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
・情報や考えなどを理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

学　習　計　画

学習項目	学　習　内　容	試験範囲
Lesson6 A Funny Picture from the Edo Period	・受け身	
Lesson7 Living on Ice	・現在完了形	前期試験
Lesson8 Building Trust in Space	・itの用法	
Lesson9 Pigs from across the Sea	・関係代名詞	
Lesson10 I Am Malala	・比較表限	後期試験
Reading2 Alone		

評価規準と評価方法

評価は、次の４観点から行います。

①コミュニケーションへの関心・意欲・態度	②外国語表現の能力	③外国語理解の能力	④言語や文化についての知識・理解
英語を通じて、外国の言語や生活様式など色々な異文化に関心をもち、積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。	英語を話したり書いたりして、情報や考えなどを適切な表現を使い、相手が理解できるように伝えることができる。	英語で書かれた説明文や物語などを聞いたり読んだりして、情報や考えを理解したり、概要や要点を捉えたりすることができる。	英語の学習を通して、英語の使い方について身につけるとともに、その背景となる外国の文化や習慣についても理解している。

以上の観点を踏まえ、
①授業態度、学習活動の参加状況を評価する。
②レポートの結果を５段階で評価する。
③定期考査の得点とレポートの取り組み状況とで総合的に評価する。

授業の進め方、課題・提出物など

各レッスンを概ね2時間配当し，前半では文法解説とその文法を用いたｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ活動を行う。後半では前回の文法を踏まえ、ﾌﾟﾘﾝﾄを使いながら教科書の内容を理解し、教科書のExercises等を課する。

担当者からのメッセージ

Ｃ英語Ⅰは必履修科目であり、卒業するためにはＣ英語Ⅰ（前半）と（後半）の両方とも修得する必要がある。Ｃ英語Ⅰ(前半)で身につけた基本英語の力をさらに伸ばし、新しい英文法や「読む、書く、聞く、話す」の４技能も身につけてほしい。また、英語の部分だけでなく、教科書を通し、外国の様子や文化についても学んでほしい。